

第2回定例会

3名の議員が理事者の考えを質しました。

・一般質問

一般質問



但木早苗議員

高齢者施設の待機者の増加に伴う今後の対策について

【質問】高齢化が進む中、施設待機者がこれまでにない増加を見えています。4月議会報告会の際にも参加者から待機者が多く将来が不安だという声が出ていましたが、介護基盤の整備は喫緊の課題と言わざるを得ません。

【答弁】(町長) これまでの参酌標準が廃止され、施設整備は市町村にゆだねられているので、待機者解消に向け積極的な取り組みが必要と考えますが町長にお伺いします。

町内高齢者施設は172名の受け入れ態勢です。待機者は現在82名で、直ちに入所を考えている方が30名とのこと
介護保険サービスに基づく

待機者解消のため高齢者施設の整備が必要ではないか!

町長へ高齢者が自立し生活できる

施設を整備していきたい。

整備事業では介護保険料の増額をもちたらずことから、今私
が考えているのは特別養護老人ホームの増設ではなく、例えば老人アパートや高齢者生活支援ハウスのような自立できる施設をふやしたいという考えを強く持っています。

児童生徒の通学路及び住民の安全な通行のための道路点検について

【質問】児童生徒の通学路の安全点検について
登校途中の児童らに車が突っ込む事故が相次いで起きているのを受け、文部科学、国土交通両省と警察庁が公立小学校に地元警察署などと連携し、8月末までに安全点検を実施することを決めたということですが、通学路の安全点検について教育長にお伺い

【答弁】(教育長) 例年4月の段階で全校児童の通学路について点検をし、危険なルートがあれば通らないようにということも含め指導しています。交通ルールを運転手の方が守っていればある程度交通安全は確保できると思っています。今回の通知に基づいての改めての点検はまだ行っておりません。

【質問】住民の安全な通行のための道路点検と町道7線と30号交差点の信号機の設置について
信号機の設置については一度伺ったことがあります、その時から見ると住宅もふえ、またそこに長く住んでいる方たちは高齢になってきています。スクールゾーンにもなっていることから、信号機がつくとスピードの抑制にも

【答弁】(町長) 町では頻繁に町道の安全確認を行っています。また、西宮、西中央自治会の地域の見守り隊に登下校時に協力をいただいているところです。
平成18年に公安委員会現地調査をして、現状の中では設置できないという回答でしたが、当時から比べても相当条件が変わっていますので、今回の質問とあわせて粘り強く設置に向け努力をしていきます。

茨城、栃木県を襲った竜巻災害への義援金について
【質問】佐呂間の竜巻災害時、茨城、栃木県から寄附が寄せられたとのことですが、このたびの町からの義援金が両県合わせて、5自治体50万円ということであり、義援金の基準についてお伺いします。
【答弁】(町長) 義援金の基準、判断は全く組んでいません。町長のそこに対する思い、これだけで

第2回定例会

・一般質問



高瀬 トシ工 議員

予測される電力不足を
乗り切るために

【質問】計画停電が確実となつた場合の北電の責任と行政のサポートのあり方が焦点ですが、住民への迅速な周知のあり方と、各団体や医療、福祉施設などとの連携について、また産業に及ぼす影響に考慮し、必要最小限の電力確保が必要と考えますが、代替電力としてリース事業の活用や、停電に備えて発電機の購入啓蒙とその支援について伺います。

また、ピークとなる搾乳時間帯への停電回避要請は可能なのか。今後、企業誘致を含め、電力確保に関する対策はあるか伺います。

【答弁】(町長)
電力に関しては、北電経由での説明だけで、計画停電等

計画停電が実施されるとき

町の対応は！

町長へ各団体と協力し

周知の徹底を図りたい。

については、テレビなどの情報を把握していただくしかありません。

先般、北電に対して、本町のピーク時の電力と、7%の節電について具体的な資料を要請し、6月なり7月の広報で町民にお知らせする考えでしたが、北電からピーク時電力などの資料は提出できないとの回答です。

もし計画停電が確定した場合、広報車による町内巡回を実施し、周知の徹底を図りたいと考えており、農協、漁協等にはファックスでの組合員周知を検討したい。

また、代替電力(発電機)に関しては、農・漁業者とも助成要請はきておらず、停電は全道的に全産業に影響を及ぼすものと私は考えており、町としての支援は不可能であります。

今後の電力確保については、町が提示する条件と企業側の施設設置後の管理面も含めた条件が合わず、前に進んでいない状況にあります。

高齢者の緊急時対応に備えた「あんしんQRコード」の効果的活用と協力支援について

【質問】支え合いの体制づくりとして考えられた高齢者の個人情報(QRコード)ですが、緊急事態に遭遇したとき、この組み込み情報をうまく機能させ迅速に対応するには、高齢者同士の日常に配慮して携帯電話の操作手順など十分な学習機会が必要であり、住民にはまだ認知されていない状況から、さらなる協力への周知が大切と感じます

がいかでしよう。

また、お年寄りは「これ(QRグッズ)を持ってたらだれかが助けてくれる。」と思っているようですが、発作や骨折などの緊急事態の現場で、コード内の連絡先とつながらない場合には、最優先に救急車を要請を想定します。QRコードにその情報がないのはなぜでしょうか。

【答弁】(町長)

あんしんQR事業は、多面的高齢者支援事業の一環として昨年5月に制定したもので、すでに広報、包括支援センター日より、PRポスター等で住民周知を図っており、交付実績は179名で、高齢者への携帯電話での読み取りについては、機会があればその都度説明をいたしたい。

【答弁】(保健福祉課長)

QRコードは、本人の住所、氏名、電話番号を基本にして、病歴、通院病院、緊急連絡先などが組み込まれており、これらは救急車が駆けつけた際に救急隊員が本人情報を確認するためなどのものと理解していただきたい。

第2回定例会

・一般質問



三田真美議員

旧若里小学校の 再利用と管理に ついて

【質問】閉校された小学校の再利用は、有効に活用されているところもありますが、比較的新しい旧若里小学校についてはいまだ使用されておらず、町民からの再利用の要望もあります。子供たちの交流の場として、宿泊研修施設としてなど活用をしないのか？

また、管理についても建物の換気や巡回など行っているのか伺います。

【答弁】（教育長）

以前にも質問を受け教育委員会内部でも検討してありますが、町の施設として利用する場合は改修費用もかかることから、民間での活用も踏まえただ上で、町民にもホームページ

各地区の集会施設等に AEDの設置を！

町長へまず佐呂間・若佐コミセンと

浜佐呂間活性化センターに設置したい。

ジ等で、どのように利用すべきか図っていききたいと考えています。また、管理については、どのような形で行えるのか検討し実施していききたいです。

幌岩山観光

【質問】自然を生かした観光事業によつては今後の佐呂間町の観光が発展していくと考えますが、展望台までの道路は待避所が少なく、カーブミラーもあまりないことから、道路などの整備や展望台駐車場からの階段の幅があり上がりにくいなど改良すべき点があると思います。

また、登山道を利用しての登山観光として専門のガイドを紹介して付加価値をつけるなどのメニューの提供をすること、エコツーリズムにつながる、社会教育としての自然の学びの場として有効に活

AEDの設置を！

用できると思いますが、お考えを伺います。

【答弁】（町長）

展望台への道路は待避所が少ないですが、地質が弱く斜面からの落石もあることから、現在は落石防止のネットの設置を昨年から行っており、待避所については考慮したいと思っていますし、カーブミラーについては検討したいと考えています。

また、階段については、チップをひくなど足に優しいものを利用するなどして対処していききたいと思っています。

【答弁】（教育長）

社会教育の中にも自然の学習の一環として取り組んでいきたいと考えています。

公共施設の AEDについて

【質問】公共施設にAEDが設置されているところとさ

れていないところがあります。現状を見ると栄地区などには1個も設置されていないことも考えると、各地区のコミユニティーの場所には設置すべきと考えます。

また、設置されていても使い方がわからなければ、救える命も救えないこともあると思います。救急救命の講習を多くの町民に受けていただくこと、また職員については講習を受けているのか伺います。

【答弁】（町長）

現在、佐呂間コミセン、若佐コミセン、浜佐呂間活性化センターには設置されていますが、設置していききたいと考えています。

【答弁】（総務課長）

設置されていない地区については、自治会などと協議した中で検討していききたいと思っています。

職員については26名が講習を受けていますが、今後においては多くの職員が講習を受けられるような方法を検討させていただきます。